

令和 6 年度  
群馬県公立高等学校  
入学者選抜学力検査問題

国 語

— 注 意 事 項 —

- 1 検査開始の指示があるまで、問題用紙を開かないこと。
- 2 解答は、解答用紙に記入すること。
- 3 検査終了の指示があったら、直ちに筆記用具を置き、問題用紙と解答用紙の両方を机の上に置くこと。
- 4 問題は、1 ページから11ページまであります。

— 春香さんたちは、次の「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」を読み、生物の進化について考えを深めようとしています。これらの文章を読んで、後の(六)の問いに答えなさい。

〔文章Ⅰ〕

著作権の関係により本文は省略します。

著作権の関係により本文は省略します。

著作権の関係により本文は省略します。

(市橋伯一『増えるものたちの進化生物学』による。)

〔文章Ⅱ〕

(更科功『若い読者に贈る美しい生物学講義

——感動する生命のはなし』による。)

(注) 摂氏二〇度……20℃のこと。

著作権の関係により本文は省略します。

(問題は次のページに続きます。)

(一) 「文章Ⅰ」中 i、ii に当てはまる言葉を、「文章Ⅰ」中からそれぞれ抜き出して書きなさい。ただし、i は六字、ii は三字とする。

(二) 「文章Ⅰ」中A——「増える能力を持たない岩石」とありますが、筆者がここで増える能力を持たない「岩石」を例として挙げた理由として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 「岩石」などの身近な例を挙げることは、自然選択が私たちの生活に欠かせないという考えの裏付けとなるから。

イ 進化にかかる時間の長さを述べるためには、変化する時間に差がある「岩石」を取り上げておくことが必要だから。

ウ 「岩石」は生物と同様に残りやすさに違いがあり、増える能力を持つ生物と比較する際の対象として適しているから。

エ 「岩石」に様々な性質があることを紹介することで、増える能力を持つ生物にも様々な性質があることが明らかになるから。

(三) 「文章Ⅰ」中B——「ここに増えるものと増えないものの違いがあります」とありますが、増えるものには、増えないものと違ってどのような特徴があるということが述べられていますか、書きなさい。

(四) 次の …… で囲まれた文は、「文章Ⅱ」中の「ア」「エ」のいずれかの箇所に入ります。当てはまる箇所として最も適切なものを、ア～エから選びなさい。

そして時間が経てば、○度に適応したのもも現れてくるだろう。

(五) 「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」に共通している表現の特徴を説明したものとして最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 「です」「ます」を用いて丁寧に説明することで、専門外の読者であっても、内容が理解しやすいよう工夫している。

イ 冒頭で示した話題について、様々な状況を「たとえば」を用いて取り上げながら、分かりやすい説明となるようにしている。

ウ 従来の一般的な考え方に対して、具体的なデータに基づいた数値を示すことで、新たな視点を読者に提示しようとしている。

エ 専門的で難しい内容について、「」や比喩を多用しながら、読者が自分自身のこととして考えることができるよう配慮している。

(六) 春香さんたちは、「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」を読んで、その内容について意見を述べることにしました。次のア～エのうち、「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」の内容を適切に読み取れているものを、全て選びなさい。

ア 春香さん 「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」は、両方とも進化について書かれたものであり、どちらの文章でも、生物が多様であることと、自然選択によって進化することとを述べているね。

イ 夏世さん 「文章Ⅰ」も「文章Ⅱ」も、環境が大きく変化することで生物の進化が起こるということが述べられていて、生物の進化の原理はとも複雑だということが筆者の主張になっているね。

ウ 秋斗さん 「文章Ⅰ」では、生物は増えることで性質が次世代に引き継がれるということを述べていて、「文章Ⅱ」では、生物は多様化することで、現在まで生き残り続けることができたと述べているね。

エ 冬輝さん 「文章Ⅰ」では、小さな変化を数多く繰り返すことで複雑な生物へと進化してきたことが述べられていて、「文章Ⅱ」では、環境の変化に適應するように生物も変化することが述べられているね。

二 次の文章を読んで、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権の関係により本文は省略します。

著作権の関係により本文は省略します。

(二) 文中A——「とてもいいと思います。亜紗ちゃんに原稿をお願いしますよかったです」とありますが、「晴菜先輩」がこのように言うのは、天文部を紹介する原稿がどのようなものであったからですか。最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

- ア 土星の輪の美しさをイメージさせるデザインとなっていたから。
- イ 天文部の財産や部員の思いをうまく伝える表現となっていたから。
- ウ 部員一人一人の責任感の強さを思い起こさせるものであったから。
- エ カッシーニの偉業を乗り越えたい思いが伝わるものであったから。

(三) 文中B——「三高天文部の、亜紗たちの数代前のOGたちが製作した空気望遠鏡」とありますが、三高天文部にある空気望遠鏡について述べたものとして適切なものを、次のア～オから全て選びなさい。

- ア 遮光板とレンズを支えるフレームは存在するが、筒はない。
- イ 十七世紀の天文学者カッシーニが日本に持ち込んだものである。
- ウ 月を見ることはできるが、土星の輪までは見ることができない。
- エ 建設現場にある機材を参考にしてデザインされたと言われている。
- オ 金属のメインフレームを木製の昇降装置が支える形となっている。

(四) 文中C——「夜空に向けられた望遠鏡を通じて、自分が宇宙と一緒に時間まで旅したような感覚があった」とありますが、「宇宙と一緒に時間まで旅したような感覚」とは、「亜紗」にとってどのような感覚だったと考えられますか、書きなさい。

(注) 三高……亜紗たちが通う高校。

OG……女子の卒業生のこと。

(辻村深月『この夏の星を見る』による。)

(一) 文中□に当てはまる語句として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

- ア 目を奪った
- イ 目を盗んだ
- ウ 目を点にした
- エ 目をこらした

三 松田さんたちは、『小倉百人一首』にある、貞信公（藤原忠平）の歌

「小倉山峰のもみぢ葉心あらばいまひとたびのみゆき待たなむ」について調べることにしました。次の「会話文」と「文章」を読んで、後の(一)～(五)の問いに答えなさい。

【会話文】

松田さん 歌の中に「もみぢ葉」が出てくるから、この歌は、秋の

紅葉の時期によんだ歌ということになるかな。

竹野さん そうだね、秋だね。私がおもしろいと思ったのは、「峰のもみぢ葉心あらば」というところだね。この歌をよく見てみると

梅山さん 確かにそうだね。私は、「いまひとたびのみゆき」が気になったけれど、そもそも「みゆき」って何のことだろう。

松田さん 辞書で調べてみると、「行幸」や「御幸」と書いて、

天皇や法皇がお出かけになることを言うみたいだよ。

竹野さん なるほどね。この歌をよんだ背景が分かれば、もう少し

歌の理解が深まる気がするな。

梅山さん さっき調べてみたら、平安時代の歌物語『大和物語』に、この歌がよまれた経緯が書かれているみたいだよ。次の「文章」がそれだね。

松田さん そうか、なるほどね。この歌の最後にある「待たなむ」

は「待っていてほしい」という意味みたいだから、つまり、この歌には、**II** という思いが込められているということになるね。

【文章】

著作権の関係により本文は省略します。

（『大和物語』による。）

（注）亭子の帝……宇多法皇のこと。醍醐天皇の父親。

おほきおとど……太政大臣である藤原忠平のこと。

大井……京都にある大井川（大堰川）のこと。

小倉の山……京都にある小倉山のこと。



(一) 「会話文」中 **I** に当てはまる語として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 対句      イ 倒置      ウ 擬人法      エ 体言止め

(二) 「文章」中——「申したまひて」を現代仮名遣いで書きなさい。ただし、全て平仮名で書くこと。

(三) 「文章」中——「いろいろいとおもしろかりける」の意味として

最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 様々な人が互いに笑い合っていた

イ 様々な色あいであつた

ウ 様々な花がとても鮮やかに咲いていた

エ 様々なできごとに好奇心をかき立てられた

(四) 「会話文」中 **II** に当てはまる内容として最も適切なものを、

次のア～エから選びなさい。

ア 紅葉するのはもうひと月ほど待つべきだ

イ 天皇が見に来るまで紅葉を保ち続けてほしい

ウ 来年からは天皇が来る際に紅葉を見せてほしい

エ 天皇とともに天皇がやってくるのを待ち続けたい

(五) 次の「まとめ」は、「文章」を読んで、松田さんたちが貞信公の歌についてまとめたものです。後の①、②の問いに答えなさい。

「まとめ」

○歌がよまれた経緯

〔場面〕 **III** のお供で大井川に行ったとき。

〔思い〕 小倉山の紅葉を **IV** にも味わってほしい。

〔行動〕 歌をよむ。

小倉山峰のもみぢ葉心あらばいまひとたびのみゆき待たなむ

○その後

「いと興あることなり。」( **IV** の発言)

これ以降、「**III**」が始まった。

① 「まとめ」中 **III**、**IV** に当てはまる人物として最も適切な

ものを、次のア～エからそれぞれ選びなさい。

ア 宇多法皇      イ 醍醐天皇

ウ 藤原忠平      エ 『大和物語』の作者

② 「まとめ」中 **III** に当てはまる語句を、「文章」から抜き

出して書きなさい。

#### 四 秋斗さんたちは、国語の授業で、「海外に伝えたい日本の魅力」とい

うテーマで発表を行うことになりました。次の「会話文」は、発表に向けた会話の一部で、「資料」は会話の際に用いたものです。これらを読んで、後の(一)、(二)の問いに答えなさい。

##### 【会話文】

秋斗さん 「日本の魅力」といっても様々な分野があるから、少し絞って考えたほうがいいかもね。

冬輝さん インターネットを見たら、こんなデータ(資料)があったよ。これをもとに考えてみるのどうかな。

春香さん なるほど、いいかも。この「資料」は、日本の文化芸術の中で諸外国に発信すべきものは何かという問いに対する回答のデータだね。様々なジャンルのうち、全体での順位が上位五位までのものを取り出しているんだね。

夏世さん 一位は、「マンガ、アニメーション映画」なんだね。比較的幅広い年齢層で割合が高そうだよ。

秋斗さん うん。でも、六十歳以上の年齢層に目を向けると、それほどでもないみたい。むしろ、「食文化」を見てみるとどの年齢層でも同じように高めの割合となっていることが分かるよ。特に、Iの年齢層においては、五つの

ジャンルの中で「食文化」の割合が最も高いみたいだね。夏世さん 「食文化」と言っても、いろいろなものが考えられるよね。おせち料理を食べる習慣とか、料理の盛り付け方とか、そういうものも含むわけでしょ。

秋斗さん そうか。僕はすしをイメージしたけれど、もしかしたらラーメンをイメージする人もいるかもしれないね。

春香さん 私は、「食文化」や「歴史文化」を、日本の魅力として海外に伝えたい気がするな。旅行で京都に行ったときには、実際に海外の人もたくさん見かけたよ。

夏世さん うーん。私は、「マンガ、アニメーション映画」も魅力があると思うけどなあ。まあ、でも、「文化」や「伝統」など、その国や地域に根ざした特有のものを、魅力として海外に伝えるのいいのかもしれないね。

冬輝さん 「資料」に戻ると、「伝統芸能」は、七十歳以上の年齢層では、五つのジャンルの中で最も割合が高いことが分かるよ。それに、「伝統芸能」や「日本の伝統音楽」については、若い年齢層の人たちはあまり選ばないだろうと思っただけれど、IIみたいだよ。

秋斗さん 確かにそうだね。「資料」からいろいろなことが分かって、参考になったな。発表に向けては、海外の人に知ってもらいたいことは何かとか、自分が見聞きしたり経験したりしたことを通して伝えたいことは何かとか、そういう観点からジャンルを絞ってみるのがいいかもしれないね。

【資料】

「あなたは、どのようなジャンルを日本の文化芸術の魅力として諸外国に発信すべきだと思いますか。(複数選択可)」

	全体	年齢別						
		18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
マンガ、アニメーション映画	27.6%	27.4%	31.9%	37.0%	36.3%	31.0%	24.5%	15.5%
食文化	26.2%	21.0%	21.5%	25.5%	29.9%	27.7%	28.6%	24.2%
伝統芸能 (歌舞伎、能・狂言、雅楽など)	23.3%	21.0%	12.7%	18.0%	17.7%	22.5%	26.1%	33.0%
日本の伝統音楽 (長唄、和太鼓など)	19.6%	24.2%	17.4%	17.2%	16.9%	17.8%	20.1%	23.9%
歴史文化 (歴史的な建造物、文化財など)	14.5%	8.1%	7.4%	10.2%	13.1%	16.9%	16.4%	18.5%

「文化に関する世論調査報告書」(令和5年3月 文化庁)により作成

(一) 「会話文」中 I、II に当てはまる内容として最も適切なものを、それぞれ後のア～エから選びなさい。

I

ア 四十～四十九歳      イ 五十～五十九歳

ウ 六十～六十九歳      エ 七十歳以上

II

ア 十八～十九歳の年齢層では、他の三つのジャンルより割合が高い  
 イ 二十～二十九歳の年齢層では、他の三つのジャンルより割合が低い  
 ウ 十八～十九歳の年齢層では、ともに二十%以上になっている  
 エ 二十～二十九歳の年齢層では、ともにわずか十%台ではない

(二) 「会話文」中——について、秋斗さんたちは、次のA～Cの三つの

ジャンルの中から一つを選んで発表することにしました。A～Cのうち、あなたなら、どのジャンルの魅力について発表したいと考えますか。あなたがそのジャンルを発表したいと考えた理由を、そのジャンルに関する自分の経験等を踏まえ、百四十文字以上、百八十文字以内で書きなさい。(句読点等も一字として数えること。)ただし、一マス目から書き始め、段落は設けないこと。なお、選んだ記号に○を付けること。

- |        |
|--------|
| A 食文化  |
| B 伝統芸能 |
| C 歴史文化 |

五 次の(一)～(三)の問いに答えなさい。

(一) 次の①～④の——の平仮名の部分を漢字で書きなさい。

- ① 友人に鉛筆をかりる。
- ② はたを振って応援する。
- ③ 物事をひはんに考える。
- ④ 会員としてとうろくする。

(二) 次の①～④の——の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

- ① 変化が著しい。
- ② 踊りの稽古をする。
- ③ 鋭い洞察力を持つ。
- ④ 偉人の軌跡をたどる。

(三) 次の「書き下し文」の読み方になるように、後の「漢文」に返り点を書きなさい。

〔書き下し文〕 過ちては則ち改むるに憚ること勿かれ。

〔漢文〕 過 則 勿 憚 改。